



新吉田

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shinyoshida>

横浜市立新吉田小学校

やさしい心を育むエール交換

校長 関谷 道代

「なんで、赤組の応援団が白組に応援しているの？」

全体練習の時に1年生がきょんとした表情で聞いてきました。見渡すと他の学年も、どこで声を出したらいいか戸惑っている様子。コロナ禍で、この数年、大声を出すことを制限されていました。4年ぶりの応援団。ですから、応援団の流れが初めてということもあり「エール交換」を知らない子どもがたくさんいたのです。



「運動会を始めるに当たって、『(赤組の)自分も頑張るよ、(白組の)みんなも頑張ってね』と言うの。エール交換っていうんだよ」

「赤組は白組に、白組は赤組に頑張れ～っていうの？」

「そうそう。お互いに頑張ろうって感じ」……そんな素朴な会話がありました。

総合得点もなければ、徒競走の順位をつけることもない運動会です。唯一順位をつけるのが、低学年リレー・高学年リレーのみという運動会において応援団の意義は……と模索していた運動会でした。

しかし、大人の不安を見事に払拭(ふっしょく)した姿を、子どもが見せてくれました。

同じレースで転んだ友達がいた徒競走。ゴールテープを切った子どもが、自分の1位を喜ぶ前に、転んだ友達に気付き、すかさず肩に手をそっと置いて慰めている姿。リレーで転んだ子どもが立ち上がって懸命に走り続けた姿に、赤も白も関係なく全力で応援する子どもたち。さらに、同じチームだけでなく、違うチームの5・6年生が泣きじゃくる4年生に駆け寄り言葉をかける姿は、大きな感動をくれました。自分を含め来賓テントの中の大人も負けないうくらい泣きじゃくっておりました。

相手が真剣に勝負してくるから、自分もがんばる。

自分もがんばるから、がんばる人の気持ちが分かる。

がんばる気持ちを、ごまかさない。自身のがんばる気持ちにまっすぐな子どもたち。

「しんけん・なかよし・だいすき」の心は、エール交換にも徒競走にもリレーにも表れていました。

近隣の方々には、5月の連休明けから、マイクの声や音楽や子どもの声にご理解いただき、あたたかく見守ってくださり、心より感謝いたします。本当にありがとうございました。また、急遽、当日の朝の登校指導をしてくださった地域の方々、暑い中、たくさんのお力を貸して下さったPTAの役員及び一日お手伝いの方々、本当にありがとうございました。多くの方々が集う運動会。たくさんエールをありがとうございました。

さて、その後のエール交換。

結局、赤組へのエールも、白組へのエールも、とりあえず「全員」が大声で叫んでいました。

ま、これもいいか。とても微笑ましい光景でしたから。

